

令和8年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『山・海・里・食・農から生まれるサステイナブル・ツーリズム・ビレッジしらやま』

活動団体の活動地域：福井県丹南地域

活動団体名：エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま

中間支援主体名：合同会社ローカルSDクリエーション

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
活動地域	福井県丹南地域
専門性・強み	
#豊かな自然環境 #里地里山・里海 #農業体験 #自然体験 #農家レストラン #農家民宿	

団体概要
【目的】 福井県越前市白山地区内に存在する美しい自然、伝統文化、伝統産業や多様な農林業生産活動を活かした農山村滞在型余暇活動の推進を通して、地域の農林業や伝統産業の振興と活性化を図る。
【活動内容】 <ul style="list-style-type: none">・農山村における体験アクティビティの企画・運営・キャンプ場の運営（太陽広場）・農産物や地域物産の販売等・古民家カフェの運営

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	合同会社ローカルSDクリエイション
活動地域	福井県丹南地域
専門性・強み	
#自然環境保全、#地域づくり、#情報発信、#伴走支援、#連携構築、#行政連携	

団体概要
設立：2020年4月
自然環境を基軸に地域の資源を発掘・創造・活用し地域の持続的発展（Local sustainability development）の創造を目指す。

活動団体と地域の紹介

エコ・グリーンツーリズム 水の里しらやま

(平成28年3月設立)

福井県越前市しらやま地区の豊かな自然環境と歴史・文化を守り続け
持続可能な集落づくりを進めていく上で
都市住民との交流による保全活動や販路拡大などは
地域活性化に不可欠です。

田舎ならではの農業体験や自然体験ができる農家民泊などを通して、
都市住民との通年的な交流を図ります。

- ★「ディスカバー農山漁村の宝」優良事例選定14地区受賞(平成29年北陸農政局)
- ★「水の里の旅コンテスト2020」奨励賞受賞(令和2年国土交通省)

活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

自然環境をはじめとした地域資源を活用し、地域の需要に適合した様々な観光コンテンツが開発され、地域外の人々との交流を通じ経済循環が生まれ、豊かな自然環境と農林水産業が守られる持続可能かつ発展性のある観光地域。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

観光需要を活用し、都市住民との交流による里地里山・里海の保全体験を企画運営するプラットフォーム。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ① 農山村における体験アクティビティの企画・運営
- ② 地域の観光ブランド戦略の策定
- ③ 地域のゲートウェイ（ハブ）機能を持つ中核拠点の拡充

■ 地域の現状と課題

【現状】

2023年度末、北陸新幹線敦賀延伸により福井県を訪れる観光客のうち、自然目的は第3位（R2年度）であった。地域の自然や農産物などの資源を活用し、持続可能な観光地域を作るため、ブランディングワークショップを通じ、地域住民への地域資源の認識と地域への誇りを醸成し、新たな体験コンテンツを企画し運営を行っている。

【課題】

- 取組みや地域ブランドの地元への広がりや地域外の人々が感じる地域資源の価値の認識
- 二次交通の確立または代替手段の検討
- 収益活動と地域活動の認識を明確化

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

『地域の資源開拓プロジェクト』

【概要】

事業概要:地域の竹でメンマづくり体験

参加人数(運営側以外):5人

8月24日:塩漬けたタケノコを、塩上げし陰干し

9月19日:干したメンマを小分けし、パック詰め

10月27日:竹取キッチン視察(富山県上市町)

【段階】試行・試験

【実施時期】 2025年4月～2025年10月

【活用している自然資本・地域資源】

・地域の里山(荒れた竹林)

【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・里山保全(竹林整備)
- ・地域の特産品開発
- ・新たな体験コンテンツの企画



今後の展望

- ・今年タケノコが裏作だったこともあり、できたメンマの量は少なかった。また施設整備も必要である事や収穫作業が春の農作業時期とも重なることから、人出不足も課題である。視察で聞いた茶木さんのお話も参考にしながら、役員間でも十分協議しながら進めていきたい。
- ・竹林整備につながる活動として、バイオ炭づくりなど他の事業の取組も今後検討していきたい。

『親子で学ぶ秋祭り体験』

【概要】

秋祭り子ども神輿

参加人数:(運営側以外):子供約30人、大人約20人

内容:子ども神輿練り歩き:みんなで子供神輿&お米にまつわる体験

- ・お米が精米になる過程を体験
- ・わら縄でワークショップ
- ・粃殻の中の宝さがし
- ・触ってみよう米ぬかコーナー
- ・新米おにぎりづくり



【段階】試行・試験

【実施時期】2025年10月12日

【活用している自然資本・地域資源】

- ・農業副産物(藁)、農産物(米)
- ・地域に残る伝承文化(神事、地域住民、コミュニティー)

【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・経済的循環(集落内の資金ストック)
- ・地域間および世代間交流
- ・持続的な地域活動の維持
- ・地域文化の復活と継承

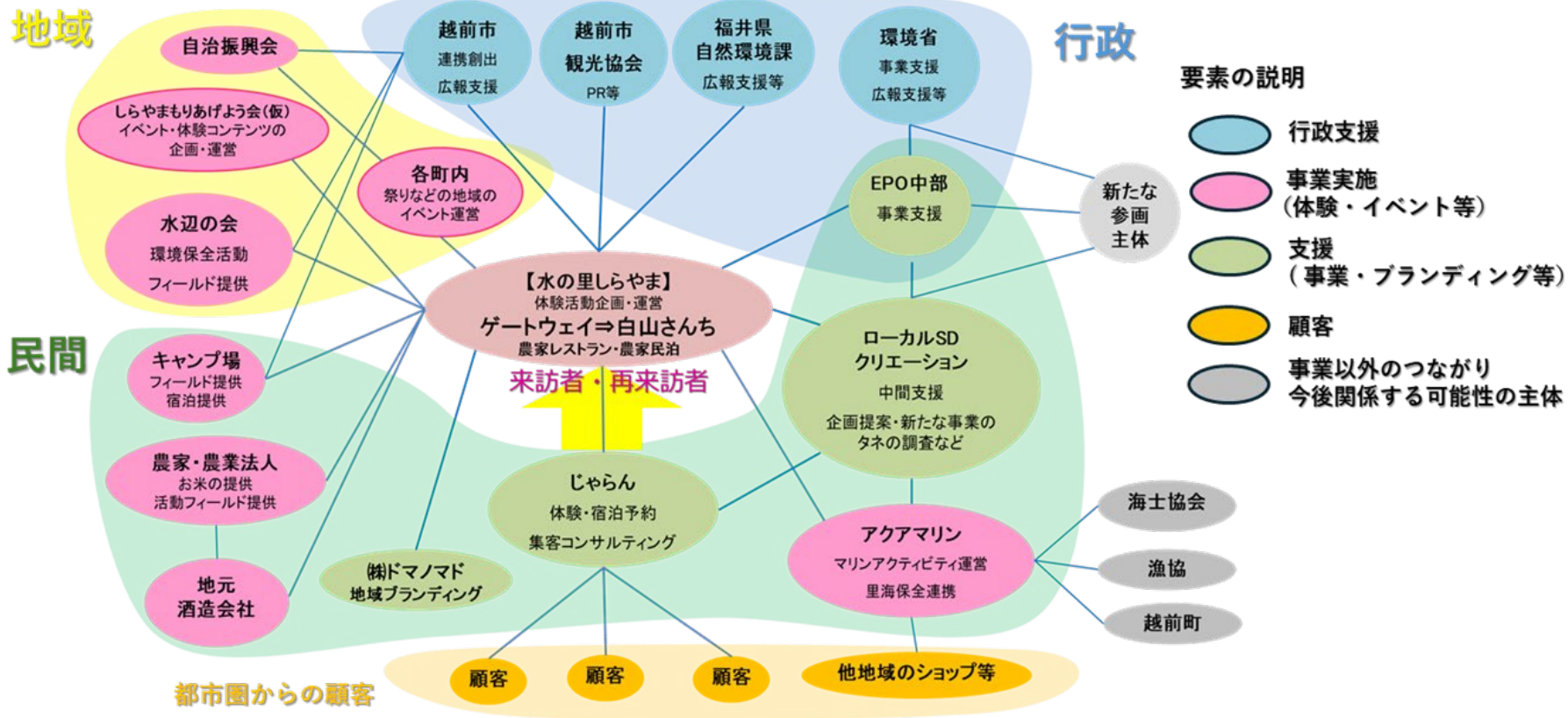
今後の展望

- ・地域の風物詩のような行事は、今後も何らかの形で残していく必要性を感じた。来年も継続していきたい。
- ・地域外からの参加者を有料化することで収益化につなげられることも期待でき、それと合わせ工夫次第では地域の小さな伝統行事の継承などにもつながる取り組みとして可能性を感じた。

(参考) 現状の地域プラットフォーム

福井県丹南地域

「山・海・里・食・農から生まれるサステナブル・ツーリズム・ビレッジしらやま」



(参考) 現時点のマングラ

福井県丹南地域版マングラ

越前市

●地域自治振興事業 (条例 平成16年)

越前市は、地区住民が自ら地区の将来像を考え、その実現に向けて地区住民自らが取り組む「住民主体のまちづくり」を実現するために、各地区に振興会を設け、地区内の意見や課題を幅広く収集し、地区民の総意を持って事業の検討や地域自治振興(まちづくり)計画の策定を行っている。

●コウノトリが舞う里づくり構想 (平成23年3月)

越前市はコウノトリを生物多様性や自然再生のシンボルとして位置づけ、里地里山の自然環境と生物多様性の保全再生を行い、持続可能な社会づくりを通じて、「生きものと共生する越前市」を目指している。

里地里山の保全活動、環境調和型農業の推進、環境学習などを通じた学びあいの推進。

しらやま振興会

(平成16年2月28日)

- ふるさとふれあい部
- 福祉健康部
- 自然環境部 (いきいき里山部)
- しらやまっ子育て部
- 防災安全部
- 広報部
- 施設運営部

- ①コウノトリが舞い降りる里作りによる自然環境の保全とそれを支える人づくり
- ②若者が住みたくなる地域づくり
- ③心も身体も健康なしらやまっ子をそだてるまちづくり
- ④地区民全員参加の安全・安心な地域づくり
- ⑤都市居住者との交流とU!【結い】ターンの促進

越前しらやま活性化協議会 (平成25年~現在)

農林水産省交付金
平成25~27年度13,628千円

里地里山の豊かな自然や食を活かした魅力あるコンテンツ開発事業等に取り組み、交流体験、商品サービス等を通して、「ふるさとしらやま」と「消費者の絆」を深め、豊かな農村コミュニティを形成し、地域活性化を図ることを目的に発足。

- ・地域資源の調査、評価(自然条件・気候・土質・水質及び人口動態)
- ・都市部の消費者との交流
- ・交流プログラムの研究開発等々
- ・しらやまブランド品の認証、周知、市場拡大

しらやまブランド 認証制度

- ・しらやま西瓜
- ・白山だいこん
- ・越前しらやま豚
- ・純米吟醸酒「かたかた」
- ・しらやま漬け
- ・そば粉

地区区長会

公民館

各種団体等

エコ・グリーンツーリズム【水の里しらやま】

(平成28年3月)

しらやま地区の豊かな自然環境と歴史・文化を守り続け、持続可能な集落づくりを進めていく上で、都市住民との交流による保全活動や販路拡大などは、地域活性化に不可欠であるため、田舎ならではの農業体験や自然体験ができる農家民宿などを通して、都市住民との通年的な交流を図る。

- ◎ 広報班・・・事業広報
- ◎ 農家民宿班・・・農家民宿家庭の発掘(令和3年現在:10軒)
- ◎ 自然体験班・・・ほたるカフェ・しらやま冬ものがたりザリガニ釣り・コウノトリ見学ガイド ほか
- ◎ 販売促進班・・・白山さんち営業(農家レストラン・弁当等)

- ★「ディスカバー農山漁村の宝」優良事例選定 14地区 受賞 (平成29年北陸農政局)
- ★「水の里の旅コンテスト2020」奨励賞 受賞(令和2年度国土交通省)

魅力・資源の
意識付け

(株)ドマノマド

地域ブランディングをプロデュース

【情報発信】

- 越前しらやま「SATOYAMAスタジオ」毎月第4日曜日
白山地区内の旬の情報を、ユーストリーム、ユーチューブにて配信

米プロジェクトチーム

越前しらやま米の販売

- 販路拡大活動(東京)
「青空市場」行幸マルシェ(丸の内 行幸地下通路)
「惣菜」※和食店(銀座8-7-2)
- しらやま米PR用シール・タグ・パンフレット製作
- しらやま米30^{kg}米袋製作検討中

しらやま もりあげよう会

地域の30~40代
の

子育て世代で結成

- 白山さんちの平日
カフェ運営
- 親子で行う体験などを企画・運営
- SNSによる情報発信

情報発信、事業連携

福井県(環境、観光、農林部局)

合同会社ローカル SDクリエーション

- 体験コンテンツの企画・運営のアドバイス
- 予約管理体制の支援
- 情報発信の支援 etc.

3カ年状態目標

■ 2026年度末の状態目標

- ゲートウェイやハブとなる中核施設拡充整備
- 関係及び連携団体の拡大
- 事業の検討と見直し

■ 2025年度末の状態目標

- 情報発信体制の構築と強化（HP及びSNS立ち上げなど）
- 交流及び関係人口の増加を目指すコンテンツ企画
- 地域ブランドプロモーションツール作成支援

■ 2024年度末の状態目標と振り返り

- 体験コンテンツの企画運営
竹のランプシェードづくり、蔓まくりスイカ収穫体験など新たなコンテンツの企画・運営
- 市中心部や新幹線駅からの二次交通の検討
サイクリングコースの企画と検討、情報発信
- 地域ブランディングプランの策定
地域ブランディングに関するターゲットやタグラインの決定に関する側面支援

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、次年度、優先的にチャレンジしたいアクションサイクル（次ページ参照）を3つに絞って記載ください。

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	体制を整える	今年度	ハブ施設として機能し始めた白山さんちの運営を活性化させるための定期的な営業体制やビジター客の受け入れ及び情報発信や予約管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営スタッフ ・ 運営に向けた施設の整備 ・ 予約管理及び情報発信の運営のための仕組み
②	事業を生み出す	随時	30代から40代のグループによるアクティビティやイベントなどのコンテンツの企画運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業進捗を共有する場 ・ 既存事業との棲み分け ・ コンテンツ運営に必要な物品や体制
③	事業主体を探す	今年度	ハブ施設を通じたイベントや体験コンテンツの運営チームの結成とガイドなどの観光脚を受け入れる人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携や運営をしてくれる事業主体 ・ 話を聞きに行く人材 ・ コンテンツ運営のための研修や教育

- 次年度、プラットフォームの運営の中核を担うメンバーと、各メンバーが担う役割を記載ください。

【エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま】

会 長 : 岡山 秀昭 (農家民泊・体験運営)
 副 会 長 : 坂田秀毅、大西藤夫 (体験活動企画・運営)
 事務局長 : 橋本弥登志 (事業企画・連携構築・農家民泊調整・地元調整)
 事務局次長 : 森和恵 (事業企画・連携構築・商品開発)
 事務局員 : 堀江浩美 (事業運営・事務処理)

【連携団体】

アクアマリン福井 : 社長 池田健人 (マリンアクティビティ)
 水辺と生き物を守る農家と市民の会 : 会長 川端 小右衛門 (里山体験等)、各自治会、鯖江市役所 J・k 課
しらやまもりあげよう会 : 30代から40代メンバー
越前市職員山干飯会 : 20代から50代の市職員
 越前市、福井県 : 環境、観光、農林部局 (事業連携)

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

- これまでの支援で出来上がりつつあるハブ施設の実務的運用に向けた活動団体への支援
- 地域外の人たちからのニーズや地域資源の魅力を知る場の設置と情報発信の支援の実施。
- 里海と里山の保全のつなぎ役里海と里山の連携事業の強化を目指した支援の実施
(越前海岸地域との連携事業)

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	新たにプラットフォームに加わった、30代～40代のメンバーとの本事業に関する趣旨説明や今後どのようなことをしたいのかという情報の聞き取りが必要。	地域の未来像や現在の取組みの展望について新たなメンバーと既存メンバーとの間でヒヤリングを行う。
②	HP、SNS、パンフレットなども含めた情報発信について内容や投稿頻度などの運用体制について役割分担や仕組みづくりが必要。	HP及びSNSについてはメンバーの中で管理する体制を整備し、運用できる方法を検討しアドバイスを行う。
③	当事業でこれまで実施してきた既存事業と新たなメンバーの行う事業についてヒト・モノ・カネのすり合わせや事業の整理を行うことが必要。	新たな活動メンバーと既存メンバーとの円滑な合意形成や情報共有を行う為、定期的な意見交換会の開催や事業終了後に自走できるように、スタッフ育成などプラットフォームの体制強化。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

【新たなつながりの拡充】

新たな関係主体の巻き込みとニーズの明確化（特に地域外から当該地域を訪れる人など）

【地域の魅力に関する情報発信能力向上】

新たな関係主体と連携した情報発信の支援能力向上

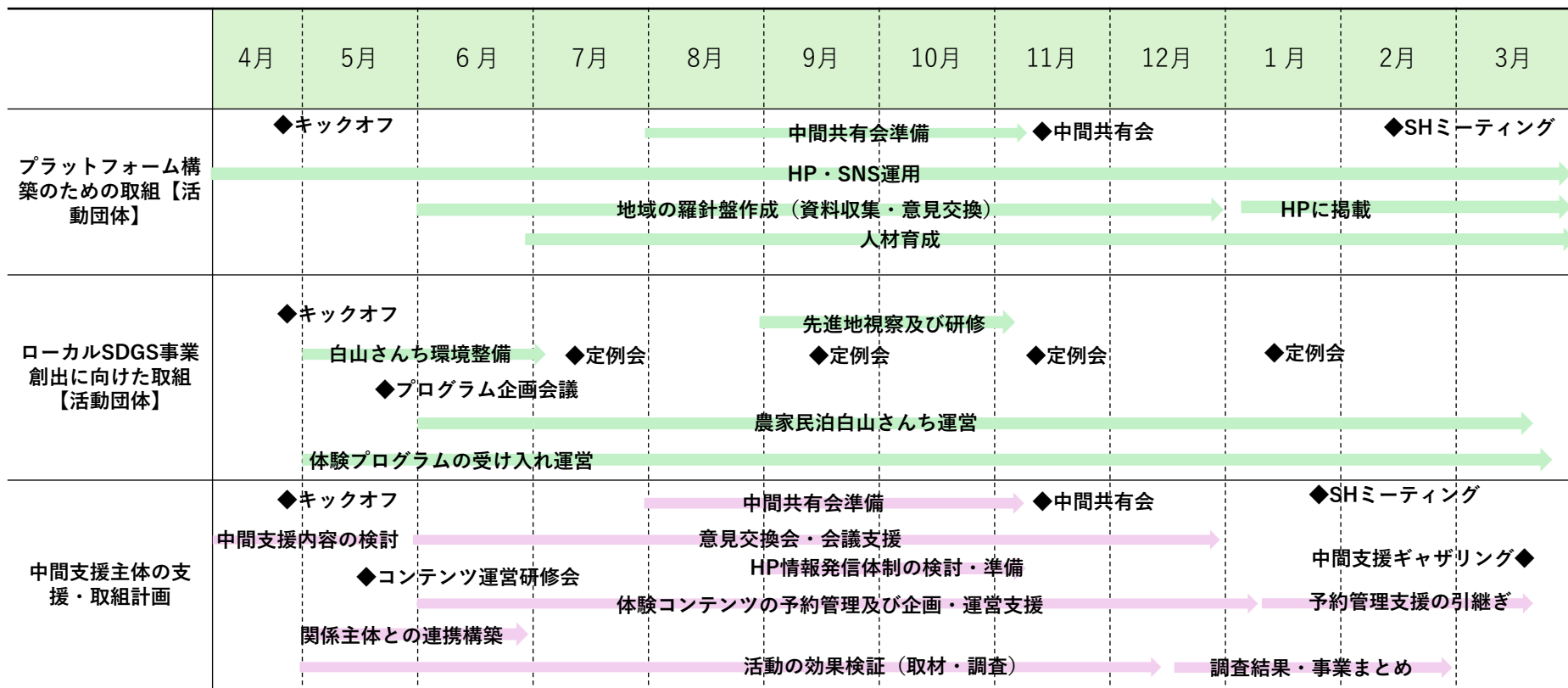
多様な媒体に発信を行うため地域の情報量を増やし多方面へのPR

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

- 活動団体の取り組みを通じ活動を持続的に行っていく為、周辺地域において多方面の連携を構築できるようにする。
- また、「この地域に行ってみたい」と思える核となるコンテンツづくりを活動団体と進め、ハブとなる施設（民泊と農家レストラン）を中心に運営することにより関係・交流人口の増加に貢献する。
- 地域外の人たちからのニーズや地域資源の魅力を聞ける場の設置と情報発信の支援の実施。

活動・支援スケジュール

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）